

野々市市まちづくり基本条例策定委員会第8回 議事・要旨
2014年4月21日(月) 19:00~21:00
野々市市庁舎201会議室

【委員12名】池田、亥野、大森、小竹、小松、中村、新美、藤田、村井、山岸、吉岡(五十音順、敬称略)

【職員ワーキンググループ10名】飯山、池上、池多、石田、熊谷、小泉、榊原、古谷、前川、水野

【アドバイザー】神谷浩夫

【ファシリテーター】森山奈美

【事務局6名】金場、栗山、舟崎、中谷、北、徳野

【欠席】大島、絹川、小堀、林、山崎、有東、宮岸、勝井、水元

◇今回の会議で決定したこと

- ・次回は条例の項目リストの検討を行う。

◇主な意見(●は後日意見)

【第7回会議全体について/会議進行について】

- ・とても楽しく参加できた。(複数)
- ・前回の振り返りと今回は全体の中のどの部分をするという確認を行うので参加しやすい。(複数)
- ・ワーキングメンバーとともに議論を深め、スムーズに楽しく進められた。勉強になった。刺激になった。会議の空気や熱を感じられて良かった。(複数)
- ・会議の進め方が大変素晴らしく、とても参考になる。考えを引き出す手法を学べた。(複数)
- ・短い時間の中でテキパキとこなすのもいいが、1時間じっくり話し合えて良かった。(複数)
- ・少人数だと議論がスムーズに、活発になった。均等に意見を出せた。意見をまとめやすい。(複数)
- ・2時間では会議を進められないと感じる。時間をかけすぎるのも良くないが・・・。
- ・ネタ出しのときは人数が多い方が多くの意見が出るような気がする。場面により人数を変えるのが必要。
- ・若い人とのペアリングで相互の意見交換でうまくまとめることができた。
- ・グループの中でも職員が多いと意見もやや職員寄りになってしまうかもしれない。
- ・自分の反省として、市民委員との作業でうまくファシリテーターの役割を果たせなかった。
- ・林さんが留守で残念。次回が楽しみ。

【まちづくりの合言葉づくりについて】

- ・パターンの整理で、課題の解決、良いところを伸ばす方針が明確になった。具体的条例、条例を市民にわかりやすく伝えるイメージができた。(複数)
- ・たくさんの合言葉が出て、色んな考えがあることに感動した。ワクワクした。前々回からの自分の意見がキャッチコピーとなって嬉しい。(複数)
- ・パターンランゲージの手法を学べてよかった。うまく機能した。今後仕事でも活用したい。(複数)
- ・パターンからどのように条例の項目に発展していくのか楽しみでも不安でもある。条例に一步近づけた。
- ・ツール(状況、あるある、具体例)を活用することで、イメージが大きく膨らむことに驚いた。
- ・各チームがたくさんのパターンをどうやって作ったのか知りたい。
- ・村井委員の発言が大変参考になった。異業種の方の視点はとても参考になる。
- ・パターン名はなかなか思い浮かばなかったが、発表するときに思いついて、既に書いた事を変えたい。

【今後の会議に向けて】

- ・住民の方と地域の課題について話し合うことはとても大切。行政では分からない要素が多く、より現実的な計画になると思った。
- ・いつも自発心や連帯感について考えることが多かったので、今日は仕組みを考える中で話し合いを通じてすごく勉強になった。
- ・情報の発信・共有について双方向のやりとりが不足していると感じた。
- ・合言葉→合いたい言葉→「愛言葉」
- ・市民の委員から市役所に市民から(メール、ご意見箱などに)どんな要望があってどんな回答をしたか、スーパーにあるような掲示板で示したらという意見があった。市役所は要望者のみへ回答している状況なので、他の市民がどんなことを望んでいるのか知る事ができないという意見があり興味深かった。
- ・情報共有、話し合いの場・決め方、参加活動の進め方が今後の重要な項目。

【その他の意見・要望・質問】

- ・ワーキンググループの方にも委員と同じ議事録などの資料が必要だと思う。
- ・参考図書を買って読んでみたい。
- ・市民協働課で参考図書を購入して欲しい。

【絹川委員へ】

- ・いつも絹川さんの思いを提案していただきありがとうございます。野々市を愛する気持ちが全文に表れ、少しでもその気持ちに添えるように頑張って話し合いをしていきたいと思えます。病院からの力添えよろしくお願い致します。体を何分気をつけて早く戻ってきてくださればと思っています。これからもお願いします。たよりすぎですネ。
- ・絹川さんが毎回意見を送ってくれていて一緒に会議を進めている感じがして嬉しいです。
- ・いつもとても熱心な意見を下さって勉強になりますし、刺激になります。お体を大事にしながら、これからも色々な視点でのご意見を下さったら嬉しいです。楽しみにしています。
- ・絹川さんの熱意に感服します。今後も意見提言をお願いします。
- ・絹川さん、いつも提案ありがとうございます。
- ・絹川さんが鯖江市のJK課にも感心を持っていらっしゃる、皆の気持ち、熱意は同じだと感じました。
- ・いつもレポートを送ってくださってありがとうございます。しっかりと読み込みます。

1. 開会

■配布資料の確認

配布資料の確認、多田元課長から協働についてのメッセージが入ったお菓子が配布された。



2. 第7回会議の振り返り

■第7回会議の振り返り

- ・第7回までに、条例をつくるための材料がそろい、これから調理していく。前回から参加しているワーキンググループは前回までの資料を見てみて欲しい。
- ・第7回会議で決定したことは、これまでの議論で出された意見をもとに条例をつくることと、今回行う予定のまちづくりの合言葉づくりに向けて、大事にしたい言葉を考えること。
- ・振り返りシートから、全体の意見としては、意見のとりまとめが難しかったという意見、皆の意見が重なるものがあって楽しかったという意見があった。
- ・第7回のグループワークでは、「まちづくりあるある」を出した。複数意見は、ボランティアや町内会役員などは他人まかせにすることが多いという意見、役割分担やリーダーの発掘と育成が必要だという意見、意欲のある若者をどう広げるかという意見、若いエネルギーを用いる術、周りの人を巻き込む姿勢が必要だという意見、言われれば一緒に参加するという意見があった。
- ・前文に野々市らしさを入れたいという意見は決定事項でも良い。グループを作って検討しても良い。
- ・グループワークでは、意見の分類を自発心、連帯感、創造力の3つに分けたが、創造力に関する意見が少なく、創造力のイメージをつかみたいという意見。
- ・自発心では、ボランティアの人がたくさんいるがいつも同じ人ばかり、何か協働に関するイベントがあるときに同じようなメンバーが集まる、役員を決める時に同じ人に役職が集中する、自ら行動する人が少ない、このようなことをしたらいいまちができると思ってても他の人に言い出せないという意見が出た。
- ・連帯感に関する課題では、何かをしようとするときに行政も市民もそっちでやってよとなり自分でやろうとしない、若い人が参加するよという若い人の話を聞けない老人が多い、「みんな」に自分を含めて考える人が少ないという意見が出た。
- ・ゴミの収集日ではないのにゴミを出す人がいる、何回お願いしてもブルーシートが時間内に出ていないなど、身近な生活での問題は、思いやりという視点や、他の人が迷惑するという思いから連帯感に関する課題に分類されている。

- ・創造力に関する課題で一番票を集めたのは、子供と一緒に遊べる屋内の大型施設がないという意見と、自主防災や地域サロンや防災マップを作るように市から言われるが具体的な作り方を言われないのでどう作ればいいのかわからないという意見。自分達でクリエイティブに考える部分が足りない。
- ・行政の色々な計画は皆が知っているのか、知ってほしいという意見と、ホームページを皆見ているのか、知るべき情報が載っているのかという意見、各団体の連携が少ないという意見については仕組みと連帯感に関する意見。福祉大会での相互乗り入れ出席は良いという意見、市の長期計画が各担当分野で共有されていないのではないかという意見が出た。
- ・その他の意見としては、県外で出身地を聞かれたときに金沢だと言ってしまうという意見が出た。
- ・票数が多い意見に関しては、なんとかしたいと思っている人が多く、解決策を見いだしたい。

3. グループワーク「まちづくりの合言葉づくり」

■パタン・ランゲージについて

パタン・ランゲージは、アメリカの建築家クリストファー・アレグザンダーが提唱。(建築・都市計画にかかわる理論。単語が集まって文章となり、詩が生まれるように、パターンが集まってランゲージとなり、このパタン・ランゲージを用いて生き生きとした建物やコミュニティを形成できるとされる。)

例えば、心地の良い空間には南側に窓があってひなたぼっこができる空間があるところは気持ちがいいことが多い、建物の敷地がまちの中で見ると神社などの神聖な場所があると気持ちのいいことが多いなど、建物のディテールの話からまち全体まで色々なパターンがある。パターンを用いて建物を設計する手法を指す。

■パタン・ランゲージの条例への応用

神奈川県真鶴町や埼玉県川越市では、まちの景観条例にパタン・ランゲージを用いている。真鶴町では美しいまちのパターンをいくつか作り、美の条例としている。川越市では4間・4間・4間のルール(建物の配置が4間)というパターンに従うことで互いの環境を守り、新しい建物を建てるときはこのパターンを適用している。いずれのまちも自由度を持ってまちの美し

さを保つことを合言葉にしている。本委員会では野々市市のまちづくりのルールを作っているの、こういうときにはこうしようという合言葉を作って共有することで、まちづくりの作法が出来上がるという仮説。

■まちづくりの合言葉づくり

第7回のグループワークで出したまちづくりあるあるのパターンを作る。どんなときにどんなあるあるがあるかという状況設定、この状況のときにこうあった方がいいという具体的な解決策を書く。

例えば、「何か協働に関するイベントがあるときにいつも同じメンバーが集まる」ということに対して、状況設定は「何か協働に関するイベントがあるとき」、あるあるは「いつも同じようなメンバーが集まる」。協働に関するイベントがあるときに多様なメンバーが集まったり、役職を決めるときに進んでやる人が多くなるなどの具体例、理想像を書く。一人一人がやります、よろこんでの精神というタイトルを付けることで、皆の合言葉になる。今回は1グループで2手に分かれて2～3人で各2個ずつのことを考える。A4用紙1枚で1パターン作成し、意見が書き上がったなら、A、B、C、D各グループの意見を順にA1からA2と連番を付ける。



■Aグループ

A1【一人が2人に声をかける】

状況：イベントやボランティア活動に同じ人ばかりが参加する。

解決：参加した人一人につき参加していない2人に声をかける。

A2【意欲を生かすコーディネーター育成】

状況：まちづくりにおける問題点を改善した方がいいと思っている人がいても、どこに言ってもいいかわからない。

解決：問題を引き出してあげること、存在が重要。

A3 【広報をもっと読んでもらおう】

状況：広報は最後の冠婚葬祭しか読めない。

解決：広報を半分以上読んでくれるようになれば良い。

市民の関心事項を探し、読んでもらえるような記事をつくる。市民が何を知りたいか、市民に市民の関心は何かを知ることが重要。

A4 【引退返還宣言】

状況：町内会長を辞めたら町内会に参加しなくなる、自分の担当ではなくなったらまちのことをしなくなる。

解決：引退してもまちのことを行う。

A5 【家の前からはじめるきれいなまちづくり】

状況：ごみが落ちていたり、大量のごみが無断で放置。

解決：まちをきれいにする必要がある。まずは家の周りをきれいにして、まち全体に広がれば良い。

■B グループ

B1 【自分からやってみよう】

状況：何かをしようとするときに人に任せてしまう傾向が多い。

解決：皆で一緒に食事をして仲良くなり、お互いの顔を知れば良い。

B2 【会議の作法】

状況：まちづくりに若い人の参加を呼びかけるとき、若い人の話を聞かない人がいる。

解決：否定をしないで話を聞き、話を聞いた後にはなるほどと納得することで、会議が円滑に進み、次世代のリーダーも生まれる。

B3 【声かけ隊】

状況：各種イベントを行う時に新しい入居者が少ない。

解決：参加しにくいのが原因なので、声を積極的にかける人を作って誘い出す。

B4 【つながり】

状況：パジャマの老人や転んだ子供が困っているときに、どこの人がかわからなくて何もできない。

解決：まちの人同士で声をかけあったり、皆で美化清掃などを行うことで、お互いに顔見知りになる。

B5 【まちも心もきれいに】

状況：ゴミの収集日ではないのにゴミを出す人がいる。

解決：ゴミの収集日ではない日にゴミを捨てることに対して良心に訴える過激な標語を作ることで、

まちがきれいになっていく。

■C グループ

C1 【屋内大型施設はあります宣言】

状況：野々市市で子供と一緒に遊べる屋内大型施設がない。

解決：施設はあっても運営の仕方が甘いので、イベント企画を発信。定例的に無料で使えるもの、交通手段が用意されたイベントを作り、町会や公民館を超えた交流の場を企画する。

C2 【具体的に言って！】

状況：防災支え合いマップなどの具体的な作り方を市から言われぬ。

解決：行政は市民ができると思っている。具体的に言いやすい環境づくりが必要。行政と市民でできる範囲を話した上で、まちのことを行う民生委員などの横のつながりを設ける。行政から市民に一斉に手紙を送り地域の人の情報を流す。情報を出されるのが嫌な人からは返事をもらい、返事のなかった人の情報を流す。行政からは手を差し伸べ、市民からは何が必要かを言ってもらいやすい状況をつくる。

C3 【グリーン宣言】

状況：宅地化が進み、緑の確保が必要。

解決：生垣をつくる、家の庭や空きスペースに鉢植えを置く。もともと野々市では田んぼがたくさんあったが、宅地化が進むことで緑が減っている。雨が降って増水することに備えることや、水路や水門などの整備も必要。生垣を作った家には補助金を出す、農地が残るように農地の税金を下げる、市街地の水がきれいになるように水路を整備する。

C4 【愛すべき野々市】

状況：県外に出たときに金沢出身だと言ってしまう。

解決：野々市があまり知られていないので、野々市を誇りに思ったり、野々市の知名度を上げることが必要。野々市が町から市になったこと、全国住み良さランキング2位であることをアピール。良いところに目を向ける。

C5 【楽しい町内会活動】

状況：町内会活動で声かけの数で参加者が変動する。

解決：やる気のある人を増やすこと、ねばり強い声かけが必要。楽しい活動をする工夫、声のかかった人が別の人を連れて来る。

C6 【市内各所でいつもイベント】

状況：野々市には大きな整備された駐車場が多いので、多くの人が集まることができる。

解決：駐車場を使って、農産物などを用いて地産地消とも連携するなどしてアピールすることをいつもできれば良い。

C7 【祭りイベントに学生を】

状況：やる気のある若者がまちのボランティアによく参加している。

解決：人材を発掘するためにも、色々な祭りやイベントに大学生や高校生も巻き込みながら、若者の活動に口出しをせずに自由にやらせる。

C8 【自分の声は誰かが聞いてくれる】

状況：まちのために何かをやりたいという気持ちを持った人がいても、声に出せずにそのままになってしまう。

解決：声に出せば反応してくれる人が必ずいるのが野々市なので、自分に自身をもって声を出していくことが必要。誰かの声に賛同する気持ちを持つことも大事。

■D グループ

D1 【総合計画特集ページ】

状況：市の色々な計画を市民が知らないことが多く、自分に関係のないことは知ろうとしない。

解決：月に1回、広報で総合計画の特集ページを作って、文字ばかりではなくわかりやすく工夫して表現することが必要。フェイスブックやホームページを見るように工夫することも必要。以前、椿まつりが開催されたときに、野々市のフェイスブックページにいいね！ボタンを押したらプレゼントがもらえる取り組みをしていた。そういう工夫をすることで、総合計画や市の計画が自然と市民の目に入り、自分にとって関係のあることだという意識を持ってもらおうと、パブリックコメントが増えたり、野々市市民である自覚が高まる。

D2 【魅るホームページ、魅せるホームページ】

状況：ホームページは皆見ているのか、情報がちゃんと載っているのかという課題。原因として、ホームページがちゃんと機能していない、情報の質や選定、市民が欲しい情報とのミスマッチ。また、欲しい情報になかなか行き着かなかったり、全体のページ構成が分かりにくい。

解決：見る側の視点でデザインの部分や、ユーザー別の切り口があれば良い。例えばホームページの主婦向けボタンを押すと、主婦が必要な情報が出て来るなど。フェイスブック、メルマガ、RSSをもう少し効果的に使う。

D3 【より市民のためのまちになる】

状況：予算の偏りがあるとき、様々な問題を解決するために予算執行をしたい。

解決：年度末に予算執行ができるようにするのではなく、お金のやりくりをしてくれるスペシャリストに管理してもらい、問題点があれば、すぐに対応ができるようにする。市民の要望や問題に対して柔軟に対応しながら、大きなことは次の予算で動けると対応しやすい。

D4 【日本一安心して歩けるまち】

状況：高齢者が免許を返納すると、のっティバスの回数券やフリーパスを配ることの背景に、高齢者の車線逆走や判断の遅れ、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故が絶えないことがある。

解決：高齢者への運転講習や免許の返納。代替公共交通手段として、のっティバスや石川線、北鉄バスその他の充実、バス会社との連携、乗り合いタクシーも充実させると、運転に不安のある高齢者の方が免許を返納しやすくなる。

D5 【知り合いを増やして助け合おう】

状況：黙っていても助けてくれないが、助けてといえれば助けてくれる、人はそんなに冷たくないという野々市の良さがある。

解決：知らない人は助けにくいけれど、知っている人は助けやすいので、知り合いを増やし、自然に声をかけられる環境づくり。知り合いが少ない20代から30代の独身の方向けに野々市っ子OB会を作り、知り合いを増やす環境づくりが必要。

D6【車のいらないまち】

状況：野々市は大きくないので歩いてどこでも行ける。

解決：一見弱みに見えることを強みに変えることで、究極はエコ化にもつながる。皆がまちを歩くようになれば、あいさつが活発になり、コミュニティが活発になる。東西方向に道を作って歩きやすいまちを作る。

森山【銭湯コミュニティ】

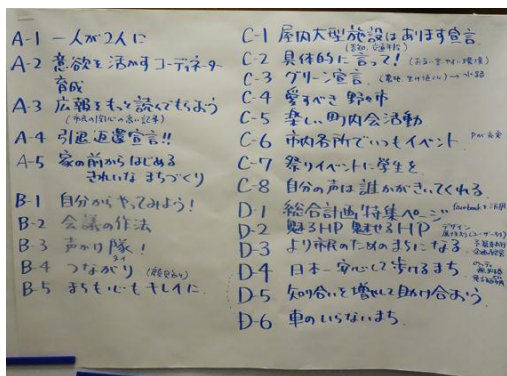
状況：銭湯や行商やよろず屋、御用聞きなどの地域の情報通の存在、交流の場があると地域の絆が深まる。まちに住む人の状況をお互いに知らないという話し合いができない。

解決：銭湯で地域の人と学生が仲良くなったり、地域の人々の健康状態を御用聞きの人を確認できると、より情報が行き交って、絆が深まる。

森山【朝のあいさつ】

状況：市街地を歩いているとき、朝の挨拶運動だけでなく声をかけあう、にぎやかなまち。

解決：お互いが声をかけあう、にぎやかなまち。



■まとめ

条文で市民の役割と言われても身構えてしまう、合言葉はより具体的で普段の行動様式を変えることになるので、市民と共有できると良い。今後、具体的に考えなければいけないことは、

- ・情報共有の方法
- ・話し合いの場と決め方。大きい意味では議会を含む。野々市でやろうとしていることとお金の配分をどう決めるか。それぞれの地域で困っていることがあり、自分たちで話し合っ解決できない場合にどこに話をして決めるかという作法。例えば、市民の意見が割れたときに、住民投票で決めるかということ条例に盛り込むか。重要な項目なので条例で方針を決

めたい。

- ・一人一人が町内会活動のみならず、まちづくりの場に入っていくときの参加活動のすすめ方にはどういうものがあるか。
- ・次回は条文に盛り込む項目のリスト検討を行う。

4. 閉会

■神谷先生より

今回の話を聞いて、皆が考えていることに感動した。七尾で条例を作って、効果があった、実感したことを聞きたい。

→条例を作って一番変わるの行政だが、まちづくりに関する情報が公開するという条文ができ、行政が隠していることがあれば条例を盾にして条例違反だと指摘できるようになった。まちづくりにおける七尾市の条例の中には、まちづくりに関する人材育成の場を市民が作っても良いと書いてあり、それに基づいた人材育成の場を立ち上げた。

条例によって、まちづくりの活動を始める後ろ盾が出来、ルールに基づいてできるというのが心強い。

■藤田会長より

前回からワーキンググループが入っていることで、私たちがより一層意見を述べやすくなったのではないかなと思う。これを糧に次へすすめたい。絹川委員の意見を皆に知ってほしいので意見を配布している。絹川委員が一生懸命考えているということも知って欲しい。本人は元気そうであることを連絡する。

【参考図書】

- ・「市民自治」(ディスカヴァー携書/ディスカヴァー・トゥエンティワン) 福嶋浩彦 著
- ・「地域力を高めるこれからの協働 ファシリテータ育成テキスト」(第一法規) 今川晃、新川達郎、山口道昭 編集